



令和4年度小学校高学年教科担任制
モデル校 実践事例集

鹿兒島市

- 鹿兒島市立吉野小学校 … 1
- 鹿兒島市立中山小学校 … 2

鹿兒島地区

- いちき串木野市立串木野小学校 … 3
- 日置市立伊作小学校 … 4

南薩地区

- 枕崎市立枕崎小学校 … 5
- 南九州市立九玉小学校 … 6

北薩地区

- 出水市立出水小学校 … 7
- 長島町立城川内小学校 … 8

始良・伊佐地区

- 霧島市立宮内小学校 … 9
- 伊佐市立羽月西小学校 … 10

大隅地区

- 鹿屋市立大始良小学校 … 11
- 曾於市立財部小学校 … 12

熊毛地区

- 中種子町立野間小学校 … 13
- 屋久島町立永田小学校 … 14

大島地区

- 伊仙町立馬根小学校 … 15
- 知名町立知名小学校 … 16



鹿児島市立
吉野小学校

算数

○ 学校の概要

吉野小学校 学級数 44学級 児童数 1149人 教員数 58人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	6年	20時間	吉野小

6年生で算数を5クラス担当(单元ごとに1クラスは学級担任が担当)して計20時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 算数科指導技術の高い職員を配置したことにより、学力の定着・向上につなげることができた。
- ・ 1单元に対して、担当教員が4学級の授業と教具作成等の授業準備を行い、1学級が担任による授業を交代で行うことにより、学級担任の持ち時数の軽減及び授業準備の効率化、同僚性の向上につながった。
- ・ 担当教員を含めた複数の教員が該当学年の児童に関わることで、児童理解に深まりが見られた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 次年度は、算数の高学年教科担任だけでなく、可能な限り教科指導に対して専門性の高い教員を配置し、一部において教科担任制を取り入れることで、これまで以上に学力向上を図っていく。そのために学年配置を中心とした校内人事の検討を進めていく必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	3・6年	17.5時間
B	理科	4・5年	21時間
C	音楽	5・6年	15.6時間
D	算数	5年	18時間

教諭Aが3・6年の理科を17.5時間、教諭Bが4・5年の理科を21時間、教諭Cが5・6年の音楽を15.6時間、教諭Dが5年の算数を18時間担当している。



鹿児島市立
中山小学校

算数

○ 学校の概要

中山小学校 学級数 59学級 児童数 1473人 教員数 87人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	20.6時間	中山小
算数	6年	20.6時間	中山小

5年生担当算数専科職員が6クラス20.6時間、6年生担当算数専科職員が6クラス20.6時間を担当する予定であった。実際には、担任代理などを務める必要があり、計画通りにいかないことが多かった。

○ 令和4年度の成果

- ・ 6年算数科を中心とした学力向上対策推進
主体的・対話的で深い学びにつながる「中山セブン」の実践
タブレットや学習アプリを活用した学習の推進
- ・ 担任の授業時数減及び業務改善
家庭学習の見届けの充実
一人一人に寄り添う生徒指導の充実
児童とふれあう機会が増え、より深くなった児童理解
- ・ 中学校進学に向けた教科担任制へのスムーズな移行
担任以外の職員も関わりながらチームで対応する組織づくり
授業者が変わっても学習の決まりを守る習慣の育成

○ 令和4年度の課題

- ・ 授業交換を含めた全校体制による教科担任制（中学校の教科担任制のような体制）の導入にまでは至らなかった。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	英語	5・6年	20.6時間
B	音楽	3・5年	21.5時間
C	音楽	4・6年	19.8時間
D	理科	5年	18.6時間
E	理科	6年	18.6時間

英語専科Aが5・6年の英語を12クラス20.6時間、音楽専科Bが3・5年の音楽を21.4時間、音楽専科Cが4・6年の音楽を19.8時間、理科専科DEが5・6年をそれぞれ18.6時間ずつ担当している。



いちき串木野市立
串木野小学校

理科

○ 学校の概要

串木野小学校 学級数 24学級 児童数 590人 教員数 33人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	9時間	串木野小
理科	6年	9時間	串木野小

5年生で理科を3クラス計9時間、6年生で理科を3クラス計9時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- 得意な担当教科を指導することができるため、児童に分かりやすい授業を提供することができた。同じ内容を3学級で繰り返すことで、授業内容の改善にもつながっている。
- 学級担任の授業時数減により、教材研究及び学級経営の諸準備の時間に充てることができた。
- 学力の個人差の対応については、教科担当だけでなく、担任や支援員の協力を得ながら授業を行った。

○ 令和4年度の課題

- 自分の担当する教科の定着度や諸学力検査結果等の結果に対する責任を感じながら指導を行った。
- 時間割調整が難しい場合がある。単純に授業を交換するだけでは、教科ごとの実施時数を確保することが難しかった。
- 教科担任制の効果を上げるために、職員の意見を集約し、校務分掌を慎重に検討しながら次年度を迎えたい。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	算数	3・4年	15時間
B	音楽	3~6年	22時間
C	外国語	5・6年	9時間
D	体育	5年	12時間
E	社会	6年	9時間

6年担任Aが3・4年の書写を2クラス2時間、音楽専科Bが3~6年の音楽を12・4時間担当している。



日置市立 伊作小学校

算数・体育
外国語

○ 学校の概要

伊作小学校 学級数 11学級 児童数 189人 教員数 17人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5・6年	10時間	伊作小
体育	5・6年	5時間	伊作小
外国語	5・6年	4時間	伊作小

5・6年の算数を計10時間、体育を計5時間、外国語を計4時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 担当教科が減り、教材研究や授業準備に専念できた。
- ・ 児童と向き合う時間や宿題などの見届けの時間が増えた。
- ・ 担任の専門性や特技などを生かすことができた。
- ・ 高学年部で、生徒指導面の連携が図られた。
- ・ 算数科における少人数指導の充実が図られた。
- ・ 運動会練習などの5・6年の合同体育が取り組みやすくなった。

○ 令和4年度の課題

- ・ 時間割調整で教務主任の負担が増えた。
- ・ 指定されている教科が限られているため、教員の配置が難しい。
- ・ 担任の学級の児童と過ごす時間が減り、担当教科以外の実態がつかめず、評価に苦慮している。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	音楽	5・6年	3時間
B	図工	5・6年	3時間
C	理科	5年	3時間
D	理科	6年	3時間

6年担任Aが5・6年の音楽を2学年3時間、5年担任Bが5・6年図工を2学年3時間、Cが5年理科を3時間、Dが6年理科を3時間担当している。



枕崎市立
枕崎小学校

算数

○ 学校の概要

枕崎小学校 学級数 16学級 児童数 375人 教員数 27人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	枕崎小
算数	6年	10時間	枕崎小

5年生で算数を2クラス計10時間、6年生で算数を2クラス計10時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ よりきめ細かな学習指導(担任との連携)
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業での学び合いの浸透
⇒ 「学び合い」…自力解決⇒対話(ペア・グループ)⇒全体(学級)⇒まとめ⇒振り返り
- ・ 「書く活動」・「説明する活動」、学びの「振り返り」の学習形態の定着及び家庭学習へのつながり
- ・ 非認知能力(物事に対する考え方, 取り組む姿勢, 行動など, 日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力)の育成
⇒ 鹿児島学習定着度調査の無答率が4教科平均0.3%と非常に低い。

○ 令和4年度の課題

- ・ 知識・技能(計算や算数用語など)の定着と思考力・表現力・判断力等の活用を意識した授業づくりを中学年(3・4年生)から行っていく必要がある。
- ・ 全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査等では、長文の読解力が求められるが、算数科だけで育成することは難しい。他教科でも、正しく読む習慣を身に付けさせたり、キーワードや問われているところに線や丸、関連付けられるところを矢印で結ぶなどを習慣付けていく必要がある。また、図・表、グラフ等と文との関連付け・比較ができる力が身に付いていないことから、例えば、社会科の授業でのグラフを活用した課題を与え、グラフのどこに着目すればよいか考えさせたり、考えたことを言葉や文でまとめさせたりするなどを授業に仕組むことが必要である。つまり、各教科部との連携や情報共有、共通理解・実践が必要である。
- ・ 図形(辺・高さなどの長さを求める課題、求積など)や、単位量あたりの大きさ(割合など)苦手としている単元について、定期的に復習をさせていく必要がある。
- ・ 考えなどを自分なりに書くことのできる力がまだ不足している。本により多く親しませたり、辞典をひく習慣を身に付けさせたり、対話を通して分かったことできたことはノートに書かせたりするなど全教育活動の中で、説明する活動を更に充実させていく必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	5・6年	6時間ずつ
B	音楽	5・6年	4時間ずつ
C	家庭	5・6年	4時間ずつ

理科専科Aが5・6年の理科を2クラス6時間ずつ、音楽専科Bが5・6年の音楽科を4時間ずつ、専科非常勤が5・6年の家庭科を4時間ずつ担当している。



各校での授業の様子

各校共通の準備物

南九州市立 九玉小学校 (本務校)

別府小学校
青戸小学校
粟ヶ窪小学校
(兼務校)

理科

○ 学校の概要

九玉小学校	学級数	6学級	児童数	57人	教員数	10人
別府小学校	学級数	8学級	児童数	111人	教員数	13人
青戸小学校	学級数	8学級	児童数	62人	教員数	12人
粟ヶ窪小学校	学級数	6学級	児童数	53人	教員数	9人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	3時間	九玉小
理科	6年	3時間	九玉小
理科	6年	3時間	別府小
理科	6年	3時間	青戸小
理科	6年	3時間	粟ヶ窪小

本務校で5年・6年の理科を3時間ずつ計6時間、兼務校3校で6年の理科をそれぞれ3時間ずつ計15時間担当している。その他、本務校では、クラブ活動及び教務主任を担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 経験豊富で授業力のある職員を加配配置することにより、兼務校や担任との連携・調整がスムーズに図られた。
- ・ 複数の学校を兼務することにより、小小連携の促進及び地域全体での学力向上が図られた。
- ・ 教科の専門性を生かした授業準備及び授業が行えた。
- ・ 複式学級における理科準備及び実験は困難や危険を伴う場合もあるため、これらを解消することができた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 複数校兼務により、学校間移動や授業準備の時間をしっかり確保し、移動や実験時の安全・安心を守る必要がある。
- ・ 小規模・複式学級での理科専科は、高学年だけでは複式担任の負担軽減が少なく、校内全体で授業調整をしていく必要がある。
- ・ デジタル教科書の教科採用が各学校で違うため、授業展開を学校ごとに変える必要があった。
- ・ 評価問題採用が各校で違うため、採点や基準に差が出た。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	音楽	5・6年	2時間
B	社会	5年	3時間
B	社会	6年	3時間
D	音楽	3・4年	2時間

1年担任Aが、複式5・6年の音楽を2時間、複式5・6年担任Bが5年理科専科のときに6年社会、6年理科専科のときに5年社会を3時間ずつ計6時間、支援学級担任が、複式3・4年音楽を2時間担当している。



出水市立
出水小学校

算数

○ 学校の概要

出水小学校 学級数 15学級 児童数 314人 教員数 22人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	出水小
算数	6年	10時間	出水小

5年生で算数を2クラス計10時間,6年生で算数を2クラス計10時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 複数の学級で授業することにより,児童の実態に合わせて指導方法を日常的に工夫し,指導力の向上が図られた。
- ・ 複数の教師が学級の児童に関わることで,一人一人の学習状況を多面的に捉えることができた。
- ・ 算数科に特化することで,より深い教材研究を行うことができ,授業を充実させることができた。
- ・ 時数の軽減や授業準備の効率化により,学校教育活動の充実や教師の負担軽減につなげることができた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 日程や行事の変更に伴う時間割調整を考慮する必要がある。
- ・ 複数の教師の指導を受けることから,教師間で授業規律,ノートの書き方等について共通理解を図り,しっかりとした学習ルールを確立する必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	3~6年	20時間
B	音楽	1~6年	18.7時間

教諭Aが3~6年の理科を7クラス20時間,教諭Bが1~6年の音楽を18.7時間担当している。



蔵之元小学校
(兼務校)

長島町立
城川内小学校
(本務校)

算数

○ 学校の概要

城川内小学校 学級数 8学級 児童数 71人 教員数 14人
蔵之元小学校 学級数 7学級 児童数 50人 教員数 11人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	5時間	城川内小
算数	6年	5時間	城川内小
算数	5・6年	5時間	蔵之元小

本務校で5・6年生の算数を1クラスずつ計10時間、兼務校で5・6年生の複式学級1クラスの算数を5時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 教材研究が充実し、質の高い授業を実施することができた。
- ・ 学習に対する見通しをもたせることで、課題解決に対する意欲が高まった。
- ・ 既習の内容を基にしながら、根拠を明らかにして論理的に考えようとする態度が育まれた。
- ・ 教科担任と学級担任が連携を図ることで、多角的に児童を理解することができた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 教科担任と学級担任において、予備時数の確保、調整などの連携が十分に必要である。
- ・ 既習事項と関連付けながら、根拠を説明できるように今後も研究を続ける必要がある。
- ・ 兼務校が複式学級であり、町内の複式学級を参観することで研究を深めたが、今後も更に深めていく必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	5・6年	3時間
A	音楽	5・6年	1.4時間
B	家庭	5年	1.7時間
B	家庭	6年	1.6時間
C	外国語	5・6年	2時間

専科教員Aが5・6年生の理科を1クラスずつ計6時間と音楽を1クラスずつ計2.8時間、特別支援学級担任Bが5・6年生の家庭を1クラスずつ計3.3時間、町内の中学校英語教諭Cが5・6年生の英語を1クラスずつ計4時間担当している。



霧島市立
宮内小学校
(本務校)

小野小学校
小浜小学校
(兼務校)

外国語

○ 学校の概要

宮内小学校	学級数 25学級	児童数 577人	教員数 37人
小野小学校	学級数 9学級	児童数 203人	教員数 15人
小浜小学校	学級数 5学級	児童数 33人	教員数 9人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
外国語	5年	6時間	宮内小
外国語	6年	6時間	宮内小
外国語	6年	2時間	小野小
外国語	5・6年	2時間	小浜小

本務校で5・6年生の外国語を1クラスずつ計12時間、兼務校で5・6年生の外国語をそれぞれ1クラスずつ計4時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 英検ESGを受験した。総合スコア(418/550), リスニング(184/275), リーディング(233/275)と合格スコアを上回った。
- ・ 専門性のある教員が指導することにより、英語で問う場面が増え、児童も英語で答えようとする姿が多く見られた。
- ・ これまで学級担任が準備してきた教材教具を、教科担任が整理し、ワークシートや提示資料等を円滑に準備することができた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 本務校の学級担任とは連携が取りやすいが、兼務校の学級担任との打合せや時間調整がうまくいかないこともあった。
- ・ パフォーマンステストを実施するにあたり、AEAやALTと日程が合わず、共同で児童の活動支援ができない際に時間がかかってしまった。学級担任との時間割調整やタブレットの活用等で、この課題ができるだけ解消できるように取り組んだ。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	書写	4年	1時間
B	書写	4年	1時間
C	書写	4年	1時間

5年担任3名が、4年生3クラスの書写を1クラスずつ週1時間担当している。



曾木小学校
針持小学校
(兼務校)

伊佐市立
羽月西小学校
(本務校)

算数

○ 学校の概要

羽月西小学校	学級数	5学級	児童数	16人	教員数	8人
曾木小学校	学級数	6学級	児童数	32人	教員数	6人
針持小学校	学級数	5学級	児童数	19人	教員数	7人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5・6年	5時間	羽月西小
算数	5・6年	5時間	曾木小
算数	5・6年	5時間	針持小

本務校で5・6年生複式の算数を1クラス5時間、兼務校で5・6年生複式の算数を1クラス5時間担当している。
また、各校の移動は5～15分で行っている。

○ 令和4年度の成果

- ・ 教科担任になることで算数科の教材研究に時間をかけることができ、課題を工夫することで主体的に学習に取り組み、数学的な表現を用いた対話活動が増えた。
- ・ 学級担任の授業時数減により、他教科の教材研究の時間や校務処理時間を確保することができた。また、校内での交換授業に積極的に取り組む意識が向上して、複式解消を図り、教材研究や指導の充実を図ることができた。
- ・ 複数の学校を兼務することにより、3校の学び方を算数通信で児童に共有することで、競争意識が生まれ、学習への意欲が高まった。

○ 令和4年度の課題

- ・ 欠席した児童が受けることができなかった授業の補完や家庭学習の見届けが必要な場合、学校間移動時間の調整や休み時間を使った指導を行っているが、十分な指導時間が確保できなかった。時間の設定や学級担任との指導方法の打ち合わせが難しい。
- ・ 加配教員が授業を行っている際は、基本的に他教科の教材研究や校務処理の時間としたが、児童の実態からT2的な立場として、指導に加わってくださることがあった。業務改善の視点からTTという体制で行ってよいか考慮することがあった。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	音楽	3・4, 5・6	3.1時間
A	理科	5	3時間
B	理科	4	3時間
B	社会	5	3時間

完全複式の本務校では、教科担任制導入により、交換授業による複式解消への意識が高まり、学校全体で取り組んだ。
3・4年、5・6年理科、5・6年社会科で複式解消を行った。



鹿屋市立
大始良小学校

算数

○大始良小学校の概要

大始良小学校 学級数 15学級 児童数 339人 教員数 28人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	本校
算数	6年	10時間	本校

5年生で算数を2クラス計10時間,6年生で算数を2クラス計10時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 教師の持ち時数の軽減や指導する教科の減少によって,教材研究が深まった。
- ・ 学級担任や教科担任など複数体制によって,児童理解を深めることができた。
- ・ 担任の授業時間が減少し,業務軽減につながった。

○ 令和4年度の課題

- ・ 担任が担当教科だけではなく,児童の学力を把握するためには教科間の情報共有が必要である。
- ・ 「専門的」な授業力を身に付けるために,担任の軽減した時間をどのように活用すべきか共通理解することが必要である。
- ・ 小学校での取組を中学校と共有することが大切である。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A(国語専)	国語	5・6年	20時間
B(5年担)	算数	3年	5時間
C(5年担)	算数	3年	5時間
D(6年担)	算数	4年	5時間
E(6年担)	国語	4年	5時間
F(理科専)	理科	4~6年	18時間
D(音楽専)	音楽	1~6年	20時間

「昨年まで指導法改善加配」として配属されていた枠に,新たに「国語」の専科を配属。それにより高学年は「国語」と「算数」,そして,以前より配属されていた「理科」「音楽」の4教科において,教科担任を置くこととなった。高学年担任は,中学年の「国語」,もしくは「算数」を担当する。



曾於市立
財部小学校

算数

○ 学校の概要

財部小学校 学級数 14学級 児童数 264人 教員数 29人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	財部小
算数	6年	5時間	財部小
社会	6年	3時間	財部小

5年生で算数を2クラス計10時間,6年生で算数を1クラス5時間,6年生で社会を1クラス3時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 高学年の単元系統を意識した授業を行うことができた。
- ・ 担当教員と学級担任で情報交換を行うことで,多面的な児童理解につながった。
- ・ 担任以外の職員が学習指導を行うことで,児童の興味・関心を高めることができた。
- ・ 教科担任制による授業で,多くの先生と学ぶ楽しさやよさを感じている児童が増えた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 少人数指導から専科による授業に転換したことで,習熟度に合わせてきめ細やかな指導ができなかった。時間割調整の難しさが危惧されるが,専科の授業の一部に担任が参加するなど協働の場を設定する手段を模索したい。
- ・ 児童の実態を十分反映させた指導とならなかった。一人一人の学ぶ意欲を高め,学習活動を活性化させる必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	外国語	5・6年	6時間
B	理科	3~6年	20時間
C	社会	5年	6時間
D	体育	5年	5時間

SETのAが5・6年の外国語を3クラス6時間,理科専科Bが3~6年の理科を7クラス20時間,5年担任Cが5年の社会を2クラス6時間,5年担任Dが5年の体育を2クラス5時間担当している。



中種子町立
野間小学校

算数

○ 学校の概要

野間小学校 学級数 12学級 児童数 258人 教員数 25人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	野間小
算数	6年	5時間	野間小
家庭	6年	3時間	野間小

5年生で算数を2クラス計10時間、6年生で算数を1クラス計5時間、同じく6年生家庭科を1クラス計3時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 高学年担任や担当教諭による得意な授業を行う体制を整えたことから、専門的な学習の成立につながった。
- ・ 教師の授業力の向上と授業の充実感につながった。
- ・ 日常的な情報共有により、多面的な児童理解につながった。
- ・ 高学年部会の運営により、協働意識が高まった。
- ・ 高学年教科担任制コーディネーターを置くことで、教師の負担感が軽減された。

○ 令和4年度の課題

- ・ 実技教科における教科担任制における効果に対する評価を明確化する必要がある。
- ・ 課題を挙げながら修正を加えるといった運営が必要であり、柔軟さが重要である。
- ・ チームで児童の育成を図るといった協働意識を高める運営を心がける必要がある。
- ・ 時間割調整等を行う等、コーディネーターの負担がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	3~6年	18時間
B	外国語	5・6年	6時間
C	社会	5年	6時間
D	体育	5年	6時間
E	音楽	5年	3時間

理科専科Aが3~6年の理科を6クラス3時間、SET加配による中学校教諭Bが5・6年の外国語を3クラス2時間、5年生担任C・Dが社会と体育の交換授業、6年生担任Eが5年生の音楽を1クラス3時間担当している。



一湊小学校
(兼務校)

屋久島町立
永田小学校
(本務校)

算数
理科
体育

○ 学校の概要

永田小学校 学級数 3学級 児童数 14人 教員数 7人
一湊小学校 学級数 6学級 児童数 29人 教員数 9人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5・6	5時間	永田小
理科	6年	3時間	永田小
体育	3・4年	3時間	永田小
算数	5・6年	5時間	一湊小

本務校で5・6年生の算数を5時間、6年生の理科を3時間、3・4年生の体育を3時間、兼務校で5・6年生の算数を5時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 専門性のある教員が指導することにより、単元テストの2校の正答率が一学期の85.3%から二学期は87.4%と向上した。
- ・ 児童にとってアンケートで、13名中7名が「算数が好きではなかったけれど好きになった」と解答した。(3名はもともと好きと回答)
- ・ 学級担任が授業時数が減ったことにより、「空き時間に教材研究をできる」「宿題を丁寧に見られる」と話していた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 雨で体育ができないときなど、突発的な時間割の変更に対応しなければならない。
- ・ 複数の学校を兼務することにより、ガイド学習の進め方やノートの使い方等に違いがあり、それぞれの学校の実態に合わせる必要がある。
- ・ 二つの学校の移動時間を考慮し、専科の授業時数が週に16時間ほどであったが、5年度にはまだ増やせそうである。
- ・ 兼務校における情報交換・意見交換の時間確保が必要である。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	音楽	3・4年	1.7時間

5・6年担任Aが3・4年生の音楽を1.7時間担当している。



阿権小学校
鹿浦小学校
(兼務校)

伊仙町立
馬根小学校
(本務校)

理科

○ 学校の概要

馬根小学校	学級数	3学級	児童数	10人	教員数	7人
阿権小学校	学級数	3学級	児童数	16人	教員数	6人
鹿浦小学校	学級数	4学級	児童数	29人	教員数	8人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	3時間	馬根小
理科	6年	3時間	馬根小
理科	5年	3時間	阿権小
理科	6年	3時間	阿権小
理科	5年	3時間	鹿浦小
理科	6年	3時間	鹿浦小

本務校で5・6年生の理科を1クラスずつ計6時間、兼務校で5・6年生の理科を1クラスずつ計6時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 理科をはじめ、単式で行える授業が増えたことにより、指導の個別化が図られ、一人一人の児童により重点的に指導を行うことができた。
- ・ 3校を兼務することにより、各校の実験結果をサンプルの一つとして活用することができ、精度の高い実験や考察を行うことができた。
- ・ 3校でオンライン授業を行ったことで、学校間の交流や多様な考えに触れる機会につながった。
- ・ 専科を配置したことにより、各校の理科備品の整理をしっかりと行うことができた。
- ・ 高学年担任の教材研究の時間が確保され、より充実した授業を行えるようになった。

○ 令和4年度の課題

- ・ 3校間を毎日移動するため、教材の植物の管理が難しかった。
- ・ オンライン授業での連携不足があったので、今後は、事前の連絡・連携を綿密に行っていききたい。
- ・ 授業では、主にロイロノートを活用した。学校ごとにログインしなければならず、学校間のデータの共有が難しかった。効果的なICT活用を図っていききたい。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	社会	5年	3時間
A	社会	6年	3時間
B	外国語	5・6年	2時間
C	音楽	5・6年	1.5時間

5・6年担任Aが5・6年生の社会を1クラスずつ計6時間、外国語専科教員Bが5・6年生の外国語を2時間、3・4年担任Bが5・6年生の音楽を1.5時間担当している。



知名町立
知名小学校
(本務校)

知名町立
下平川小学校
(兼務校)

算数

○ 学校の概要

知名小学校 学級数 9学級 児童数 179人 教員数 17人
下平川小学校 学級数 8学級 児童数 67人 教員数 12人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	5時間	知名小
算数	6年	5時間	知名小
算数	5年	5時間	下平川小
算数	6年	5時間	下平川小

本務校で5・6年生の算数を1クラスずつ計10時間、兼務校でも5・6年生の算数をそれぞれ1クラスずつ計10時間担当している。

○ 令和4年度の成果

- ・ 同じ教師が同じ中学校区の高学年の算数を指導することにより指導の統一性を図ることができた。
- ・ 同じ授業を次の学校で行うにあたり、1回目の授業の反省をもとに2回目の授業を改善し、より質の高い授業を実施できた。
- ・ 算数科の5・6年生の授業を同じ教師が連続して行うことで単元の系統性がよく分かり、系統性を生かしたより分かりやすい授業へと改善することができた。

○ 令和4年度の課題

- ・ 2校で専科授業を実施しているので、各学校での情報交換や引継ぎの場の設定、学校間の連携等が必要である。その時間を今後どのように確保していくかが課題である。
- ・ 専科授業だけの関わりで兼務校の児童の特性やその日の心の状況等を把握することは難しい。専科教員は深い児童理解に基づく関わり方や授業学級担任との事前の情報共有等、教師としての高い資質・能力が必要となる。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	図画工作	2年	2時間
B	図画工作	1年	2時間

5年担任Aが2年生の図工を1クラス計2時間、6年担任Bが1年生の図工を1クラス計2時間担当している。